

製品名: NDR2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14474**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	STK38L
別名	STK38L; KIAA0965; NDR2; Serine/threonine-protein kinase 38-like; NDR2 protein kinase; Nuclear Dbf2-related kinase 2
遺伝子 ID	23012.0
SwissProt ID	Q9Y2H1
免疫原	NDR2 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 380-460

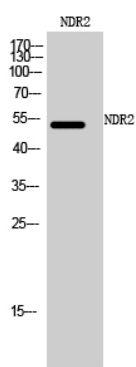
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: S100B の結合によって活性化さ

れ、自己阻害性の N ロープ相互作用が解除され、ATP の結合と Ser-282 の自己リン酸化が可能になります。その後、Thr-442 は上流のキナーゼによってカルシウム依存性リン酸化を受けます。リン酸化 Thr-442 と N ロープ間の相互作用は、キナーゼの活性化を完了させるさらなる構造変化を促進します。自己阻害は、MOB1/MOBKL1A と MOB2/HCCA2 が STK38L の N 末端に結合することによって解除されます。機能: 分化および成熟した神経細胞における構造プロセスの調節に関与しています。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されますが、おそらく ATM または ATR によるものです。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。細胞内局在: アクチン細胞骨格に関連。サブユニット: ホモ二量体 S100B は、STK38L の 2 つの分子に結合します (類似性による)。MOB1 および MOB2 と相互作用します。組織特異性: 普遍的に発現し、最も高い発現レベルは胸腺で観察されます。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: S100B の結合によって活性化され、自己阻害性の N ロープ相互作用が解除され、ATP が結合して Ser-282 が自己リン酸化されます。その後、Thr-442 は上流のキナーゼによってカルシウム依存性リン酸化を受けます。リン酸化 Thr-442 と N ロープとの相互作用は、キナーゼの活性化を完了させるさらなる構造変化を促進する。また、MOB1/MOBKL1A および MOB2/HCCA2 が STK38L の N 末端に結合することでも自己阻害が解除される。機能: 分化および成熟神経細胞における構造プロセスの調節に関与する。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つの AGC キナーゼ C 末端ドメインを含む。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: アクチン細胞骨格に関連。サブユニット: ホモ二量体 S100B は、2 つの STK38L 分子に結合します (類似性による)。MOB1 および MOB2 と相互作用します。組織特異性: 普遍的に発現し、最も高いレベルは胸腺で観察されます。、

研究分野

画像データ



NDR2 ポリクローナル抗体を用いたマウス細胞のウェスタンブロット解析